

飛驒の木製飛行機



<http://digitalarchiveproject.jp/information/飛驒の木製飛行機/>



飛驒の木製飛行機キ106

■木製飛行機(キ106)製作の足跡

陸軍四式戦闘機「疾風」を原型に製作した木製飛行機(キ106)

昭和17年夏頃より 浜松の河合楽器の指導にて、飛驒木工(株)で木製落下タンク(2型200^{リットル}45cm 1.68^{リットル})の製造開始以降、19年から4型、20年7月からは6型を製作)

18年10月 木製飛行機生産の内命

18年 全国科学者連盟本部を飛驒木工(株)内に移設(木材強化技術研究会発足)

19年1月 東京飛行機製作所に技術取得派遣

19年3月 陸軍航空本部より木製飛行機製作の指示

19年5月 高山航空工業株式会社設立

(飛驒木工(株)、高山航空機材(株)、飛驒航空工業(株)、(株)飛驒製油所、丸大木材工業所の5社を統合し戦闘機の製作開始。)

同5月 岐阜県立高山航空工業学校開校(現岐阜県立高山工業高校の前身)

19年暮れ頃 キ106試作1号機が東京まで空輸された。

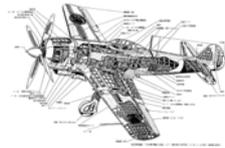
※テストパイロットの三原氏(郡上八幡出身)は、真つすぐ飛べるだけで、なかなか高度が上がらない、旋回やとんぼ返しが思うようにできない。「木の翼は、操縦桿を倒した二、三秒後に機体が動くと思うほど反応が鈍く敏捷性に欠けて扱いにくかった」と語っている。

20年6月 生産設備一切を上枝小学校体育館に疎開。このまま終戦を迎える。

※終戦までに十二機分の胴体と翼を作り上げて富山の組み立て工場に送っているが、実践配備されることなく終戦を迎えた。



キ-106疾風三面図



キ-106疾風試作戦闘機解剖図



キ-106疾風写真



キ-84 (2)



キ-84 (4)



キ-84(1)



キ-84(3)



キ-84(5)



キ-84(6)



キ-84(7)



キ-84(8)



キ-84



キ-84操縦席外観



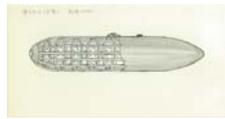
知寛特攻平和会館正面(1)



知寛特攻平和会館正面



知寛特攻平和会館正面入口



落下タンク(木製)



落下タンクを搭載した飛行機



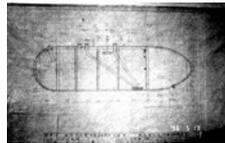
落下タンク完成品(2型)



落下タンク作業風景(高山高等女学校)



落下タンク設計図(2型)



落下タンク設計図(2型)・濃